

星なかま☆ひめじ発足のエピソード

今年で30周年を迎えた星なかま☆ひめじ、発足までのエピソードをご紹介します。

2022年1月10日 大杉

1983年5月に突如として現れたIRAS・荒貴・オルコック彗星、この彗星の情報を知りたくて明石天文科学館に問合せたところ、職員の菅野様に対応頂き、彗星観測者の集まりである“星の広場”を紹介いただいた次第です。そして早々の翌月に、菅野・三枝・藤川彗星が発見されたことを、“星の広場”のアストロレター（ハガキ）で知ることになりました。なんとあの菅野様が発見された新彗星だったのです。こんなことがあり、彗星がとても身近な存在になったわけです。

大学に入ってから、森ノ宮で開催されていた“星の広場”の近畿例会に通うことになり、いろんなことを教えていただきました。天文ガイドでおなじみの大先輩方ですから、わたしはとても緊張していましたが、みなさんととても親切でとても居心地のよいものでした。

地元の姫路で就職したのを機に、自身でも同じような会をやりたいと思い、始めたのが“星なかま☆ひめじ”なのです。そして星の広場の夏合宿として毎年開催していた“星を見よう会”にあやかって、“ビールを片手に星を見よう会”が始まったのです。

2018年1月には、“星の広場50周年カノープスを見よう会”に参加。帰りに“星の広場”初代会長加茂さん宅を初めて訪問するなど忘れられない思い出になりました。

星なかま☆ひめじもこんな50周年を迎えられるよう、がんばっていきましょうと思います。

<星の広場50周年カノープスを見よう会での思い出の写真>



多胡さん菅野さん入江さんと同じ部屋でした。憧れの藤井旭さんにサインを頂きました。



加茂さんの自宅前にて

このガリ判刷りから沢山情報が届けられました。

以上